

災害時における相互協定による
砂防学会の現地調査について

「災害時における調査の相互協力に関する協定」に基づき、砂防学会は調査団を結成し、別紙のとおり6月21日（土）から現地調査を開始しました。6月22日（日）は、東北地方整備局と共同で現地調査を実施します。

（発表記者会）

宮城県政記者会、岩手県政記者クラブ、東北電力記者会、東北専門記者会

（問い合わせ先）※取材については井良沢准教授へご連絡ください。

○砂防学会調査団団長：岩手大学農学部 共生環境課程

准教授 井良沢 道也（砂防学）

電話 019-621-6137

携帯電話 090-4477-5442

○東北地方整備局 河川部 河川計画課

住所 仙台市青葉区二日町9-15

電話 022-225-2171

6月21日 建設専門官 一戸 欣也（内3616）

6月22日 総合土砂災害対策係長 大平 知秀（内3646）

平成 20 年（2008 年）岩手・宮城内陸地震土砂災害に関する砂防学会緊急調査団の派遣

平成 20 年 6 月 19 日

（社）砂防学会研究開発部会長 寺田 秀樹

2008 年 6 月 14 日午前 8 時 43 分頃に岩手県内陸南部で発生した岩手・宮城内陸地震（M7.2）により、震源域である栗駒山周辺においては大規模な斜面崩壊、土石流、地すべり等による甚大な土砂災害が発生している。山体崩壊に匹敵するような大規模斜面崩壊が発生しているほか、斜面崩壊から流動化した土石流が温泉施設を破壊し、7人が生き埋めになった。（社）砂防学会では、このような土砂災害を生じた斜面崩壊、土石流、地すべりなどの土砂移動現象について、発生からその後の二次移動まで含め実態を把握し土砂災害の特徴を明らかにする目的で、砂防学会緊急調査団を構成し派遣することにした。

調査団構成

団長 岩手大学農学部准教授 井良沢道也
岩手県立大学総合政策学部准教授 牛山素行
新潟大学農学部教授 川邊洋
京都大学防災研究所教授 藤田正治
立命館大学理工学部教授 里深好文
（独）土木研究所 内田太郎
（財）砂防地すべり技術センター 池田暁彦

調査日程

2008 年 6 月 21 日，22 日（必要に応じ、その後追加調査）

問い合わせ先

岩手大学農学部 共生環境課程
井良沢道也
Tel:019-621-6137, Fax:019-621-6107
E-mail:irasawa@iwate-u.ac.jp
携帯電話：090-4477-5442

平成 20 年 (2008 年) 岩手・宮城内陸地震土砂災害に関する砂防学会調査団日程

6 月 21 日 (土) お昼 12 時 J R 東日本新幹線くりこま高原駅改札口集合

- 13 時 30 分 荒砥沢ダム上流の荒砥地区大規模地すべり末端部調査
- 15 時 00 分 栗駒ダム上流の崩壊地調査
- 16 時 30 分 岩手県衣川・磐井川流域などの崩壊・地すべり調査
- 18 時 30 分 ホテル到着
- 20 時 00 分 ホテルにてミーティング

ホテルルートイン一関インター宿泊 (予約済み)

〒021-0041 岩手県一関市赤荻字鶴巻 33-1

TEL:0191-33-2011 FAX:0191-33-2012

6 月 22 日 (日)

7 時 30 分 ホテル出発

9 時 00 分 仙台空港東邦航空ヘリ発着場

(仙台空港メイン改札口から 2 k m くらい離れて
います)

<http://www.tohoair.co.jp/office/ssmap.pdf>

- 10 時 00 分 ヘリコプターフライト (東北地方整備局みちのく号)
- 12 時 30 分 ヘリコプター仙台空港東邦航空着
- 14 時 30 分 東北自動車道一関インターチェンジ
- 15 時 30 分 磐井川市野々原地区天然ダム調査
- 16 時 30 分 磐井川周辺の崩壊地調査
- 17 時 30 分 東北自動車道一関インター解散
- 18 時 00 分 J R 東日本新幹線一関駅解散

砂防学会調査団団長：岩手大学農学部

・共生環境課程・准教授 井良沢道也 (砂防学)

Tel:019-621-6137, Fax:019-621-6107

E-mail:irasawa@iwate-u.ac.jp

携帯電話：090-4477-5442